

施策事例 ① 住民参画・NPO・ボランティア関連施策

「わが町工場見てみ隊」によるモノづくり企業の魅力発見事業

自治体情報 大阪府 大阪市

人口 / 2,543,137人 標準財政規模 / 751,596百万円

- 担当課** 区民幸福度向上戦略室（総務課）
- 電話番号** 直通 06-6977-9118
- 実施主体** 東成区住工共存まちづくり懇談会、東成区役所
- 関連ホームページ** <http://www.city.osaka.lg.jp/higashinari/page/0000170730.html>
- 事業期間** 平成23年度から
- 関係施策分類** ②

予算関連データ

総事業費：254千円

名称	所管	金額(千円)
一般財源	大阪市	254

施策のポイント

企業・区民・区役所の協働による工場見学会。子どもの学びを通じて、まちの特徴である地元モノづくり企業を地域住民に再認識してもらい、相互理解を深めることで住民と工業が安心して共存できるまちづくりをめざす。

施策の概要

1. 取組に至る背景・目的

大阪東部エリアは、モノづくり企業の集積地として東大阪市が有名であるが、大阪市東成区もそのエリアに含まれている。オンリーワン・ナンバーワンの技術力を持つ企業や職人が集積する「モノづくりのまち」であるが、住民と企業のコミュニケーションが少ないことから地域住民にはあまり知られていない。

そこで、子どもの学びを通じて、東成区のまちの特徴であり地域資源でもあるモノづくりを地域住民に再認識してもらい、相互理解を深めることで住民と工業が安心して共存できるまちづくりの推進をめざす。

2. 取組の具体的内容

『わが町工場見てみ隊』による工場見学は、小学生が工場を見学し、モノづくりを体験し、職人の熱い想いを聞き、そこで感じたことや学んだことを隊長に報告するという企画である。

1回あたり2～3の工場、1工場につき50分程度でコースを設定。受け入れ工場には、小学生にわかるように体験を交えて説明してもらい、まちと企業の関わりについても語ってもらうことにより、企業を知るとともに地元のまちの歴史も学んでもらうという点に工夫がある。

3. 施策の開始前に想定した効果、数値目標など

この企画は、住工共存のまちづくりをめざし、モノづくりでまちを元気にしようとした企業と区民の『東成区住工共存まちづくり懇談会』から生まれた。将来のまちの担い手である小学生に楽しく学んでもらい、全員に次も参加したいと感じてもらうことを目標に開始した。

4. 現在までの実績・成果

平成23年度からスタートし、平成24年10月現在で3回の見学会を実施した。主催者・参加者で述べ160名余りが参加し、新聞（2紙）やラジオ、動画サイトなど多数のマスメディアで紹介された。また、参加した子どもたち（小学3年生～6年生）の全員から「次も参加したい。」というアンケート回答があった。

また、区内金融機関も参画するなど、回を重ねる毎に主催者は増え、イベントを通じて、住工共存のまちづくりを話し合うネットワークが拡大してきた。

5. 導入・実施にあたり工夫した点や苦勞した点とその対処法・解決策など

受け入れ工場の交渉、ガイドや警備等、企画から実施まで区民が主体的に実施し、行政は広報支援等の裏方に徹した。また、別のイベントでパネル展示などの活動報告の広報を行うことにより、当日参加者以外の多くの人にも企画内容やモノづくり企業をアピールできた。

多くの費用をかけず区民が主体的に企画・実施することにより、継続が容易となった。主催者からは、「事前・当日の準備がたいへんだったが、地域貢献につながった。」「社員教育になった。」という声があった。このように協働体制を持続させるためには、主催者と参加者の双方にメリットがあるウィン・ウィンの関係を作ることが重要であると考えた。

6. 今後の課題と展開

今後の展開として、東成区だけにとどまらず、隣接区や東大阪市・八尾市などと市域を越えて連携し、域内全体でモノづくりについて話し合えるネットワークづくりをめざしていきたい。